

千枚田を守り抜いた偉大な先人たちへの鎮魂の灯

お田植感謝の夕べ

～みんなで灯そう千枚田～

四谷の

千枚田だより



第260号

お知らせ
五月三十一日(土)、午前八時
から「お田植感謝の夕べ」を視
野に環境整備を行います。



サミット開催
20周年記念

開催日時 令和7年6月7日(土)午後7時から

鞍掛山麓千枚田保存会

共催:各種団体・地域住民の皆さん

協力:愛知県ふるさと指導員

お田植感謝の夕べ

～みんなで灯そう千枚田～

開催のお知らせ

日本三大石積棚田を築いた偉大な先人の功績を偲び、感謝の気持ち
を伝える催し。田植えの終わった六
月の第一土曜日を「昔の農休み」と
捉え、急傾斜地の沿道に千五百本の
ロウソクが映える。灯は幽玄(幻想
的)の世界を醸し出し、来る人々の
束の間の癒しの場となり、評判が評
判を呼び、大きな催しとなってい
った。

会場には駐車場がないため、旧連
谷小学校駐車場からJA愛知東の
ご好意でシャトルバスを運行。

催しには元手がかかる。会場では
田んぼを荒らしまくったイノシシ
を捕獲、有効活用したシシ汁や「棚
田っ娘」の千枚田五平餅、お馴染み
「鳥長」の焼き肉など思い思いのパ
ザーを展開。また、八雲だんごやヤ
マサちくわ(キッチンカー)も出店
協力を仰ぐ。無論、会場には来年開
催を占う協力金箱なども設置する。
また、天空を彩る打ち上げ花火
(二十発)も好評で、現在予約中であ
るが、数は少なくなっている。

沿道のロウソク設置、点灯などに
JA愛知東鳳来寺支店の役員の皆
さんや地元の神屋工業社員など多
くの皆さんの協力、申し出があり大
変心強く、感謝の至りです。なお、
設営は十四時から行います。一般の
方も是非ご協力をお願いします。

平成十八年からお天道様のご好
意、協力で雨知らずで開催されてき
ました。今年も、これからも千枚田
共々、よろしくお願いいたします。

J A ども農学校の田植え

J A 愛知東が主催する「J A ども農学校の田植え体験」が十日、四谷の千枚田で行われ、参加した六十人の子供たちは裸足で田んぼの泥に足を取られながらも丁寧にミネアサヒの苗を植えていった。



子どもたちに四谷の千枚田は千五百万年前の火山活動で噴火、転がってきた石を積み上げて築いた田んぼで日本三大石積棚田である。また、生物多様性に富んだ場所でもあり「仏法僧」も鳴くと説明した。J A ども農学校は J A 愛知東管内の

小学三年生から六年生を対象とした学校通年型(年十回)農業体験イベント。二十一年目を迎えた今年度の農学校には小学校十四校から六十人の児童が参加、農業体験を学ぶ。

豊橋調理製菓専門学校での田植え

同校は、「食の原点を知る」をテーマに平成十八年から四谷の千枚田で米づくりを実践。自ら育てた米一粒の大切さを体感するため、田植えの草取り、稲刈り、脱穀と年に四回学習する。

五月八日、二十一名の学生は新城市鳳来総合支所請井支所長から素晴らしい景観を保持している四谷の千枚田を堪能、実のある稲作体験を期待します。東海農政局愛知県拠点奥平地方参事官から四谷の千枚



四谷の千枚田のめぐみプロジェクト

今年のお田植え祭り、お天道様にも恵まれ、おやんが立ちの五月晴れ、まがに(立)めちや似合っているほれほれ～今年一限り倍の方から申し込みがありや田んぼにおやんぼんさん加いごち美味お母で感かっみなサ皆ろるがたるすに自とじら(※おやん=伊藤健司 PL)

田は棚田百選・つなぐ棚田遺産に認定。日本の多くの棚田はお米の供給とか伝統文化の継承、国土保全など多くの機能を有しており、貴重な我が国の財産である棚田を次世代に繋げることが農水省にとっても重要であると考えており、当然農業者の方々、多様な主団体との連携強化も必要と思っている。この四月に食糧基本法の改正「食品ロス」の軽減、地産地消(国内産)などを盛り込んだ挨拶があった。

田植えを行う前に学生たちに先輩たちが行ってきた生育調査の結果から稲の苗を二本から三本を基準に植えると、分けつして一株が約二十本になり、無効分けつ(実がならない茎)が少なく、稲が倒伏しにくく、品質の良い米が収穫できた。等々、植える間隔と生育状態、一粒の米の大切さの説明を行い田植え

ヤマサちくわの田植え

十一日、恒例となった「ヤマサちくわ」は社員研修、コミュニティの一環とした田植えが原田英史(理事)の指導で行われた。開始前に恒例になった挨拶では、高齢化、獣害被害の拡大、用水(湧き水)の減少など現状維持の苦労話などをお聞きいただいた。なお、佐藤社長は千枚田の保存継承には多岐に渡り大きな理解を戴いている。

行 令和七年五月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二